

第3回飛騨高山SDGsパートナーシップセンター 会議録（要旨）

日 時：令和5年11月13日（月） 10時00分～11時30分

場 所：高山市役所 4階 特別会議室

出席者：飛騨高山SDGsパートナーシップセンター委員 7名、

高山市SDGs推進アドバイザー 2名（内1名オンライン）、オブザーバー 2名

高山市総合政策部長、総合政策課長、総合計画策定室総合計画策定係長、総合計画策定室担当

会議内容（次第）

1. 開会（清水副市長あいさつ）
2. センター長あいさつ
3. 報告事項
 - (1)飛騨高山 SDGs パートナー登録制度の状況について
 - (2)飛騨高山 SDGs ウィークイベントについて

資料に基づき事務局が説明

細田センター長

- ・ SDGs ウィークの会場については想定以上の出展者が集まった関係で少し狭いという状況であった。次回開催する場合は会場と出展者数のバランスを考慮してほしい。
- ・

山本委員

- ・ SDGs ウィークには私も出展させていただいた。ウィークの出展事業者と交流を深め、その繋がりで、私が活動している地域（大八地区）で例年開催しているSDGsフェアにも出展してもらえらることとなり、ウィークに参加して非常に良かった。
- ・ 出展ブース内でポッチャをやらせていただいた。誰でも簡単にできるスポーツで、当日は小学生と車イスの方などたくさんの方に参加していただき皆で楽しむことができた。
- ・ ウィークに合わせて市から募集があったSDGsカードに、SDGsをテーマに探究学習をやっている東小学校の6年生の皆さんに参加してもらった。ウィーク当日に学年を

代表して2名が受け取りに来て、清水副市長から贈呈されたため、非常に喜んでいました。学校でも皆に自慢しており、参加して非常に良かった。

白田委員

- ・ 私もあかりんぐと言う身体障がい者の団体に所属しており、SDGs ウィークにはパネル展示で出展した。人との繋がりということで、知ってもらうことが大事なことであり、その点に関しては本当に多くの方にPRすることができた。
- ・ 私の息子が車いすでウィークには一緒に参加したが、参加者が非常に多く、会場の中に入ることができなかったことが残念であった。
- ・ SDGs は本当に難しいことじゃなくて楽しいってことを参加者の人にわかってもらえたということが、あの場において実感できて本当にいい機会だったと思った。これがこの場限りで終わるのではなく、次に繋がる活動になれば素晴らしいと思う。また、来年度以降も同じようなイベントで、パワーアップした内容にして、ますます市民の皆さんにSDGsが浸透していけば良いと思う。

細田センター長

- ・ 次回のウィーク会場についてはその辺のユニバーサルアクセス、多様な方がアクセスできるような配慮も次回は必要かと思う。

長瀬委員

- ・ SDGs ウィークについては、SDGsをある程度取り組んでいる、または知っている方しか集まってない。SDGsを広げるためには、知らない方に対して参加してもらう必要がある。10月9日に岐阜県庁で県SDGsパートナーの認定式に出席したが、入口ではマルシェが開催されており、そこを目的に多くの方が来ていた。そのマルシェに出されているものはSDGsの取組みで作られたものや、身体障がいの方が作ったものなどがあり、そういったものが出ていることで、周りの人が集まってきてSDGsのイベントとして盛り上がっていた。ウィークを同じような方法ですすめても、知っている人しか集まらない。一般の方が喜んで来場し、そこでSDGsを知り、取組みへと繋げていくようなすすめ方が必要であると思った。
- ・ SDGs ウィークの交流タイムについては、出展事業者の紹介する時間が欲しい。取組みや企業の強みなどを発表し、意見をいただくような方法で実施してはどうかと思う。各事業者を知ってもらうことで、事業者間の連携に繋がると思う。

山本委員

- ・ 以前私たちの活動で防災学習を開催したが、この学習に参加した子どもが私が所属する団体がウィークに参加していることを知り、母親を連れてブースに来てくれた。

長瀬委員が発言されたように SDGs を広めていくことは大切なことであり、学校や子どもを切り口として広めていく方法も有効かと思った。

森本委員

- ・ 今回キッズフェスタ 2024 ということで、4 年ぶりに子供たちを集めたイベントを駅西交流広場で開催させていただいた。今回のキッズフェスタのテーマは SDGs ということで、障がいがあってもなくても楽しめるイベントにしようということで会場をバリアフリーに配慮したり、子どもが何かあったときに休めるテント等を設置した。また、市に協力いただき、将来の高山の姿を描くブースも出展した。たくさんの方に参加してもらい、キッズフェスタを通して SDGs を市民の皆さん知っていただくきっかけになった。

古里アドバイザー

- ・ 私も一市民としても市内で SDGs が広がるのが重要であると思う。子どもが学校の授業で SDGs を習い家で話していた。子どもはもちろん、保護者世代など隅々まで市内の皆さんに、少しでも認識してもらってということが大事だと思う。
- ・ 市では積極的に SNS などを利用しながらの情報発信を実施しているが、もう少しその前の段階でよりパッシブな形でも何か日常の中で SDGs を意識付けにつながるような施策が何かあると良いと思う。アナログではあるが、例えばまちなかに SDGs のポスターなどデザインを意識しながら、皆さんの興味を引くように綺麗に並べ掲示するなど、これって何だろうと SDGs に興味を持ってもらえるようなことができれば良いと思う。

山本委員

- ・ 飛騨高山 SDGs パートナー登録制度のマッチング支援について。乗鞍青少年交流の家から SDGs カードゲーム (moritomirai) 開催の募集があったため、東小学校 6 年生の授業で実施してもらった。参加した児童、先生からの好評を得たため、夏休み中に開催したワークショップでも実施していただいた。ただこのマッチング支援の募集方法については、市のホームページへの掲載やパートナー事業者に対してメールで情報提供があるが、なかなか一般の人が目にする機会がないと思う。アナログ的な方法であるが、紙などでまちづくり協議会などへ配布するなど周知方法については工夫してほしい。

(3. 報告事項の続き)

(3)高山市 SDGs 未来都市計画の進捗評価について

(4)高山市 SDGs 未来都市計画の更新について

資料に基づき事務局が説明

関アドバイザー

- ・ SDGs 未来都市計画の進捗評価について。私は SDGs 未来都市計画の取組みの評価委員をさせていただいている。高山市は国際観光都市を目指すということで、先進的な取組みをしてファンを増やしていくということで、SDGs 未来都市に選定されたところである。目標値である KPI については、コロナ禍の影響もあり、数値的にはマイナスの部分があるが、コロナ明けとしては順調にすすんでいると思われる。数値目標としては達成が難しい部分もあるが、十分にしっかりとした事業をすすめていると思う。
- ・ 一方で国際観光都市としてメインとなるのが、ホテルや旅館などの宿泊業や飲食店、そして土産品店で、それぞれの企業の認識度や取組みが高山市からは見えてこない。例えば食べるものであれば地元の良いものや有機野菜を使う。土産品においては、過剰包装をやめるなど、それぞれが色々と工夫しながら、取組みをすすめてほしい。
- ・ その他、タクシー事業者における取組みについては、海外の方はほとんど現金を所持していないため、電子マネーやクレジットカードなど対応する必要がある。また、環境面で言えば市には歴史的保存地区もあるため、ガソリン車ではなく EV 車に切り替えて CO2 の削減に取り組んでみてはどうかと思う。
- ・ 経済、社会、環境面においてそれぞれが循環する国際観光都市を目指していただきたいというのが、内閣府それと私達の委員からのお願いであり、期待しているところである。

高原委員

- ・ 観光業における SDGs への取組みについては、我々も以前から課題と感じている。一定程度の進展はあると思うが、まだまだ観光業界においては、浸透していないところである。市の基幹産業である観光業全体で、SDGs に取り組むことが重要だと思っているため、関係者からの意見を取り入れながら、すすめていきたい。

古里アドバイザー

- ・ 私も今、今回のこの振り返りのところを見て、これからどういった取組みが必要なのかを現地側のアドバイザーとしてはしっかりやっていかなければいけないというふうに責任を感じているところである。やはり観光都市というところで一つこの未来都市に選定されているところもあり、飛騨高山の中では非常に重要な産業であるため、観光業界全体が SDGs を意識した取組みをしっかりとやっていかなければならないと思う。
- ・ サステイナブルツーリズムの観点から、例えば宿泊施設や飲食店で使うエネルギー

を自然エネルギーに切り替えることや、SDGs の国際的認証を取得するなどの取組みがあると思う。食品残さの問題やフードロスの問題など、色々と取り組むところがあると思う。あとは、多様性という意味では、いかに地域の中で外国人人材と地域の方々が融合しながら受け入れの体制を作ることなどもある。各分野において取組む必要がある課題が様々にあるため、それぞれの課題を抽出しながら具体的なアクションとして、何をどういう順番でやっていけるのかをしっかりと整理しながら、取り組んでいきたいと思う。

細田センター長

- ・ 飲食店や宿泊事業者に対して、まず SDGs パートナーに登録するところから始めて、具体的な取組みに広げていく必要があると思う。

関アドバイザー

- ・ 観光協会の会員に対して、SDGs に関するアンケート調査を実施して、SDGs の取組みがすすんでいるのかをデータで持つことが重要だと思う。現状を把握し、将来の未来像を求めて、どのような戦略とすすめていくのか検討する必要がある。
- ・ SDGs は環境面の取組みだけではなく、労働問題や男女雇用問題も関係している。女性の賃金を上げるだけでも実は SDGs に繋がっている。取り組むことで、若い女性が高山から転出してしまうことを防ぐことができる。女性の正社員化など雇用対策も SDGs に繋がり、良い人材が地元に残るということにも繋がるため、企業に対しては柔軟な発想で SDGs に取り組んでほしい。SDGs が地域のためにもなるだけでなく自分の会社のためにもなるんだという考え方を少しでも知ってほしい。

細田センター長

- ・ 持続可能な発展そのものが本来、経済面と環境面が Win-Win の関係を目指している。これらが両立してうまくいくような環境づくりもやっぱりパートナーシップセンターの役割ではないかと思う。今後何か知恵を絞ってすすめていく必要があると思う。
- ・ イギリス人の友人が初めて日本に旅行に来てその感想が面白い内容であった。日本はどこに行っても綺麗で、それから人々がとても親切であると話していた。一方でスーパーに入ると、なぜ日本人はプラスチックの袋をみんな持って行くのかと疑問に感じていた。そういったところを少しでも変えられたら良いと思った。高山市らしいやり方で、改善できればと思う。先ほどはデータという話があったが、色々な意見の集約や、企業だけじゃなくて観光の色々な地域でのデータを集約して、それを戦略に繋げることができれば良いかと思う。

白田委員

- ・ 参考資料の市のSDGs未来都市計画の概要に、「人・自然・文化がおりなす飛騨高山SDGsパートナーシップの推進」と書いてあり、“人”が一番最初に出てくるところが重要だと思う。国際観光都市飛騨高山について、私のイメージでは居心地が良い、住んでる人もそうだが、観光に来た人も居心地が良い、それが長期滞在に繋がり、お金を落とすっていうことにも繋がると思う。赤ちゃんからお年寄りまでが快適に過ごせる飛騨高山っていうものであれば、地元に住んでいる私達にとっても良いし、市外から来た人にとってもすごく快適で居心地が良ければ、また今度行きたいっていうことにも繋がると思う。具体的な施策は現在ないが、何かをずっと目指し続けていく、それがもうSDGsそのものになっていくのではないかと思う。

中部大学

- ・ 未来都市として、環境、社会、経済の三つの分野で市の課題があってそれを解決したり、あるいは更に良いところを伸ばして相互関連を意識しながらサステナブルなまちを作ってその魅力発信していければ良いと思う。
- ・ SDGs パートナー登録事業者のリストの事業者の業種を見ると、バランスが取れていて素晴らしいと思うが、登録だけをしているところもあると思う。
- ・ 観光面でサステナブルツアーのようなものを実施して、結果を市内企業と共有するなど、相互に理解が深まっていければ良いと思う。
- ・ ふるさと納税をインターネットで申し込んだところ、返礼品を指定した先からすぐに電話がかかってきて、新たな繋がりができたと聞いた。これを参考に海外の方とも交流できればと思う。海外の人と直接英語で話すことができない場合は、英語ができる高校生といっしょに取り組むなど、色々できることはたくさんあると思うので、そういうことができれば、さらに面白いサステナブルな魅力発信になるのではないかと思う。

4. 意見交換

細田センター長

- ・ 経済産業省からサーキュラーエコノミーに関する産官学のパートナーシップ会員を募集している。資源を循環利用することで、自然資源を節約して廃棄物を出さないことについて、色々な知恵が出ているが、それを繋げていくということで、国がパートナーシップを呼びかけている。ぜひこのパートナーシップセンターあるいは高山市でどういう形でも良いが、参加について考えていただければと思う。

山本委員

- ・ レジリエンス協会から防災に関するアンケートについて協力依頼があった。3年前か

ら協力しているが、ハザードマップに関する認知度など上がっていることや、課題感などを把握することができている。良かった点としてはこれ以外に、このような外部の団体と繋がりができたことである。引き続き、外部との連携を大事にしていきたい。

- ・ 東小学校の6年生と東山中学校の主に美術部との取組みで、SDGsで学んだことなどからインプットしたことをアウトプットだけじゃなくてアウトカムまでできるような循環を今作っている。例えば、自分たちが森林をどうしていきたいかっていうことを考えて、それが未来にどうなったらいいか、何をしたらいいかっていうことを表して、地域の方に広めるという活動ができているため、こういった地域と学校との協働活動を、色々なところで発表し続けていければと思う。

長瀬委員

- ・ 飛騨高山パートナー事業者の取組み活動について、市のホームページを見ると、活動報告を上げているのは、ほとんど私の会社しか掲載されていない。ホームページ上で発信できることを知らないのか、そういうことを周知されていないのか、やる気がないのかということになるので、そのようにならないようにぜひ登録をしたら、自分たちの取組みを少しでも発信できるような体制をとってもらいたい。
- ・ 脱炭素とかカーボンニュートラルなどと言われているが、実際に何をやればいいのかってことは一般市民の方は知らない、分からない内容である。実際、どのような取組みをすれば本当に脱炭素に向けての行動ができるのかということをやらなければならぬ。それもあるので私の会社では、2030年までにCo2排出量を42%カットするということを目標に定め「中小企業向けSBT」認定を取るなど、このような取組みをすることで、様々なところに広がらないかと思い、一つ一つ取組みをすすめているところである。
- ・ 脱炭素に向けてのアクションとして、ネイチャーポジティブという考えがあるが、名古屋市が政令都市として日本で初めて宣言をした。高山市もぜひこの92%と森林があっという山岳観光もある中で、宣言に向けて検討してほしい。
- ・ 森林を針葉樹から広葉樹に変えていこうという全国的な展開がある。気を植え替えることがポジティブなことではなくて、それによって鳥が何%増えたか、虫が何%増えたかなど、そこまで求めるのは、30by30の話にはなるが、そういった取組みを高山市が絶対にやらなければいけないことだと思っているので、そういった活動をぜひ皆さんに発信をしたり、広報活動にも繋げてすすめてほしい。

関アドバイザー

- ・ 長瀬委員の意見には賛同する。市は国際観光都市でもあるが、森林面積が日本一の自治体でもある。CO2削減を本気でやることによって、まさに日本の見本、トップランナーになれると思う。結果を出して、数字上でも効果が出てくるのかという可視化が

重要である。市には結果が数値で出るような具体的で、かつダイナミックな事業をすすめてほしい。

- ・ 森林事業については、森林組合だけではなく、土木建設業の方が担う方が合理的だろうというふうに思っている。道路も作れる方々が道路を作りながら、森林経営をしていくというのは非常に合理的な経済活動になるのではないかと思う。大胆な森林経営計画や、CO2削減への取組み、新しい動物環境の保存などこれらが循環していくような形で取り組んでほしいと思う。

六角委員

- ・ 大学連携センターとして学校教育での共同学習において、ふるさとに愛着が持てる子どもたちを育てる取組みのお手伝いをさせていただいている。その取組みの一つとして、地域の方も参加してもらって中学生、小学生といっしょにフェノロジーカレンダーを作り始めた。この取組みが非常にSDGsに関係してくると思う。最終的に子どもたちがSDGsはどういうものなのかというのを具体的に考えられるようになるのではないかと考える。
- ・ 県の観光協会からの依頼でツアーを構築している。一つは飛騨の家具の物語を全部飛騨センターで勉強するようなツアーと、市内家具メーカーに訪れて、飛騨の家具の歴史を知ってもらいながら、家具の生産課程でいかに廃棄物を出さないかなども知ってもらおうツアーを考えている。
- ・ 乗鞍青少年交流の家の活動について、カードゲーム以外に間伐材や交流の家付近の木を使ってコースターを作る体験がある。これは何の木なのかなど森林について説明しながら体験するメニューとなっており、子ども達も非常に喜んで参加している。このように各企業で実施しているものが、実はSDGsに繋がっているが、それに気づいていない企業もいると思う。その辺をアドバイスするのが、パートナーシップセンターの役割ではないかと思う。
- ・ 来年、全国規模の文化関連のイベントの開催が県内で開催される。この期間に合わせてSDGsウィークを開催すれば、全国の参加者に対して市のSDGsの取組みをPRできると思う。

中部大学

- ・ 中部圏SDGs広域プラットフォームの活動について、昨年10月に第1回目となるフォーラムを高山市で開催したが、今年は11月18日に蒲郡市で開催する。また、このフォーラムは中部圏SDGsフェスティバル2023の一環で開催するもの。このフェスティバルのオープニングイベントが名古屋市であったが、フェスティバルには高山市が協賛として参加しており、そのオープニングイベントの中で高山市の動画も流れ、大変嬉しく思った。

- 同じくフォーラムの関係ではあるが、命を繋ぐ水と流域ということで流域単位で様々な観点から持続可能な社会を考えていこうということで今年の 2 月にフォーラムを開催したが、来年の 3 月に大阪で開催する予定である。
- 中部大学のことで申し訳ないが、国際的な SDGs に関して大学を評価するインパクトランキングというのがあり、SDGs 別のランキングで目標番号 4 番の教育部門で今年、日本一となった。
- 中部圏 SDGs フェスティバルのオープニングイベントで東北大学の教授が企業活動にかける生物多様性の保全に関する講演をされていた。今までのグローバルな環境問題は温暖化問題と生物多様性のロスの 2 つであり、温暖化問題の方が深刻だというイメージが強くずっとリードし続いていたが、先ほどの長瀬委員が発言された通りで、生物多様性の方も今追い上げている状況になってきている。企業活動においても生物多様性については無視できない状況であるとのことであった。高山市の取組みがこのような国際的な動きにどう繋がっているのかを整理していくことも重要なことだと思った。

細田センター長

- 過去の国際的な環境会議でも地球温暖化と生物多様性で、両輪だったのにいつの間にか気候変動が大きな問題になってそちらが取り上げられていたが、最近では生物多様性についても取り上げられてきた。日本でも環境立国戦略の中で、気候変動問題の対応と生物多様性、資源循環の三つの柱であり、少しバランスがとれてきたのかなという思いがある。今後の市内の取組みもこれらに貢献すると思うので、アウトカムに出して、それを可視化するということが必要になってくると思う。
- 本日は委員の皆さんからたくさんの活発なご意見をいただき有難く思った。

5. 閉会